



宮久保の地名の由来に関係すると考えられる八幡宮

や)が六丁目の八幡宮だとい
うのです。

大正三年(一九一四)、白
旗神社は鷺島、諏訪、日枝
それに天満神社を合祀して
大正七年に社殿を新築しま
した。この神社の参道入口
に当たる県道側は、坂道の
途中に当たり、そこには大
きな松の木がありました。
古くからこの坂道で転ぶと
災いが降りかかるといわれ、
その災いを避けるためには、
着ている着物の袖をちぎっ
て、松の木の枝に掛けられ
よいといわれていました。
雨上がりの日などには、幾
つもの着物の袖が掛かって
いた時代もあったといいま
す。そこで、この松を「袖
掛けの松」と呼んでいまし
た。この松も昭和二十三年、
県道拡幅工事のために伐採
されました。この袖掛けの
松の根元には、文安五年(一
四四八)の信楽(しがらき)
禅門の碑が建っています。が、
土地の人たちはこの碑を、
「楽さま」と称して、今でも
多くの参詣者を集めていま
す。

江戸時代の宮久保村は、
明治二十二年八幡町の大字
となり、昭和九年市川市の
大字、二十六年には字が廃
止されて宮久保町に、そし
て四十六年の住居表示の実
施で宮久保一〜六丁目にな
りました。平成元年十月、
白旗神社の社殿は新しく建
て直されました。

次回は「北方」を予定し
ています。

(社会教育指導員

綿貫喜郎)

元宮(もとみや)のある窪地

宮久保

久保は窪とも書き、地形
の窪んだ状況を指します。
そこにお宮が鎮座したとこ
ろから「宮久保」、あるいは
「宮の窪」と呼ばれました。
それでは、宮久保の地名の
起こりになったお宮とは一
体どこのお宮だったのだし
ょうか。

現在宮久保六丁目に鎮座
する八幡宮は、南から入り
込んだ窪地の上に位置して
います。どうも地形から見
て、この八幡宮が宮久保の
地名の起こりをなすもの
のように思われます。

江戸時代の宮久保には、
白旗神社をはじめ、八幡宮、
弁財天、諏訪神社、天満神
社の五社がありました。こ
のうち白旗神社は、文明十
八年(一四八六)に再建さ
れた記録を持つ古社ですが、
一説に、もとは八幡宮(祭

神は菅田別命(ほむだわけ
のみこと)で後に別れて、
武内宿祢(たけのうちのみ
くね)を合祀(ごうし)し
白旗神社になったものとい
います。その元宮(もとみ